今月の・・・・・・・・・・聞きがたり・・・・・・・・・・・・・きらり人・・・・・・・・

冨髙トメ子（とみたかとめこ）さん

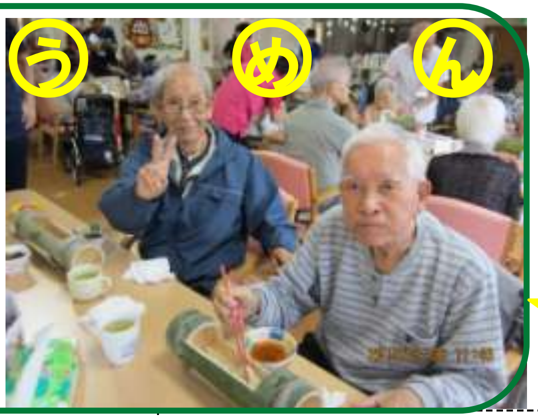
私は妻町生まれ。尋常高等小学校卒業と同時に多くの同期生と一緒に宮崎神宮近くにあった製糸工場に４年ほど勤めました。大きな工場でしたよ。４年程勤めた頃両親が何か資格を取って独立出来るようにと宮崎市の旭通りにあった産婆・看護学校に入学させたんです。当時の旭通りは小学校や中学校等が並び、学校通りと呼ばれてました。そこで看護婦の免許試験を受けたのですがその試験結果が出ないうちに戦争が勃発して別府市の亀川海軍病院に６人の同期生と派遣させられたのです。別府も空襲を受けましたが日赤を表示していたので病院自体の攻撃は免れました。第１病棟は戦場に復帰不可の重傷者。第２病棟は戦場復帰可の入院病棟でした。１年ほどして看護師免許を頂きましたが２名が落ちて宮崎に帰って行きました。その後、両親の希望で家に帰りましたが直ぐに新田原陸軍病院に召集。でも日々空襲が激しくなって三財に病院を移りました。いわゆる野戦病院です。その頃になると薬も無く小麦粉を水に混ぜて飲ませていたんです。赤痢も流行して便汚染の物を焼却すると煙が出て敵に知れるというので石炭缶を部屋に持ち込んで焼却しました。劣悪な環境の中で助けられない人を見送るのは忍びないことでした。そんな時、美々津駅で兵隊さんが機銃攻撃を受け多数の怪我人が出て大分の赤十字病院に兵士２名と看護師６名で輸送することになりました。機銃攻撃を避けるために夜移動しました。大分に着くころ空から沢山の風船爆弾が下りてきました。あとで聞くとあれは爆弾ではなく投降を呼びかけるビラが入っていたそうです。帰りは汽車の予定でしたが佐伯から先は鉄橋が次々落ちていた為、徒歩で帰ることとなりました。昼は歩けないので二晩かけて空腹の中、美々津に辿り着いたのですが、あの時はホッとしてみんな号泣しました。そのあとに大きな暗闇の中薄暗い家の明かりを見つけてトウキビとイリコの粉を頂き、飢えと疲労の中家に到着。倒れるように爆睡しました。翌朝、人のざわめきに目が覚めると「戦争に負けた」ということでした。あの頃に比べると今、幸せです。子供たちに感謝してます。

シルバーコート新町　広報

さくらの実　No.３

シルバーコート新町
訪問介護ステーション　なのはな
デイサービス　さくらスクール

編集委員：尾崎久児子・吉田けい子・朝倉志帆



住宅型有料老人ホーム

シルバーコート新町

入居者募集

デイサービス

さくらスクール

利用者募集

●お問い合わせ

TEL：0983-35-3400

■今年の梅雨は雨の日の連続。シルバーコート新町の農業委員会のAさん・Bさん、「折角植えたナスもネギもダメになった」とガックリ。その話を聞いていた入居者のAさんが「天気の悪口を言う人は、次は人の悪口を言うようになるそうだよ・・」と教えられて、「昔の人の教えは深い！」と感心するやら反省するやら。

■６月の誕生会は大正琴の同好会の方の出演。皆さんが懐かしい曲を演奏され口ずさむ人も。その中にかって先生と生徒の関係だった人もいて、お互いに吃驚。あらためてゆっくりと後日再会となったが、その時のNさんの駆け寄る姿はセーラー服の女学生そのもの。恩師との思い出は、色あせる事はないのだろう。

■７月１日付けで河野留美施設長が赴任された。

生まれが７月７日と言うからまさにかぐや姫である。そして、お腹の中には新しい命が・・・シルバーコート新町の吉兆の兆し。

■七夕そうめんは千年前からの行事となっているそうだが、今年は竹で一人ひとりの器をこしらえた。

竹伐りから大変な労力だったが、皆さんから凄く喜んで頂き嬉しかった。